

韓国文化遺産を考える特別講演会：「訓民正音」の意義について

韓国語（朝鮮語）を表記するために作られた文字は今日ハングル（한글）と呼ばれる。この文字は1443年に作られ、1446年に刊行された『訓民正音』（解例本）とよばれる本の中でその仕組みが詳細に説明されている。この「訓民正音」という名称は、当初はそれを説明した文書名あるいは書名を指していたが、後に、この文字自体も訓民正音と呼ばれるようになった。

この講演では、「訓民正音」をめぐってこれまでに明らかにされていることと、依然として謎として残されている問題点を論じながら、この文字が作られた意義について考えてみる。具体的には次のような問題点を取り上げる。(1)訓民正音という名称は何を意味するのか。(2)訓民正音は誰がどのようにして作ったのか。(3)訓民正音と他の文字体系との関係はどう考えられてきたか。(4)訓民正音は文字体系としてどのような点が優れているのか。(5)訓民正音が作られた当時から現在まで韓国語（朝鮮語）はどのように変化してきたか。

講演者紹介

福井 玲（ふくい れい）：岐阜県出身。東京大学文学部言語学科卒業。東京大学文学部助手、明海大学講師、東京大学教養学部助教授を経て、東京大学文学部・人文社会系研究科教授となり、2023年に定年退職。東京大学名誉教授。1984年～1986年にソウル大学校人文大学国語国文学科大学院博士課程に留学。韓国語の音韻、方言、歴史、資料研究などを行なうとともに、日本語の方言の研究も行っている。著書・編著書に『韓国語アクセント論叢』（東京大学人文社会系研究科2000年）『韓国語音韻史の探求』（三省堂2013年）、『小倉進平『朝鮮語方言の研究』所載資料による言語地図とその解釈』（第1～3集、東京大学韓国朝鮮文化研究室2017、2018、2022年）など。

【日時】 2024年11月9日（土）13:30～15:30

【形式】 ハイブリット形式で開催（対面＋オンライン）

参加費無料、ただし11月7日（木）までに**参加登録**が必要です。

下記のウェブフォームまたはメールでの登録をお願いいたします。

開催日までに、事務局よりメールでウェビナーのURLをお知らせします。

【申請方法】 事前参加登録はこちらから→ <https://forms.gle/c8jK8AxwmWQUzG6w8>

・対面参加（定員20名）東京大学駒場キャンパス18号館コラボレーションルーム1

※対面参加は、定員になり次第、申し込みを締め切らせていただきます。

・オンライン参加 ※開催日までに、事務局よりZoom URLをお知らせします。

お問い合わせ cks@iags-cks.c.u-tokyo.ac.jp（東京大学韓国学研究センター事務局）

主催 東京大学韓国学研究センター

後援 韓国国外所在文化遺産財団